

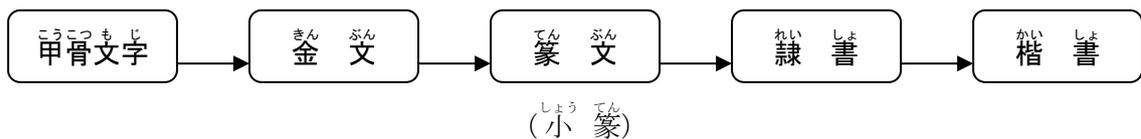
フレンドリーバス古代文字ラッピングについて

福井県出身であり、漢字・文字文化研究者として文化勲章を受章した白川静先生は、甲骨文字や金文などの古代文字を研究し、漢字の成り立ちや意味を見直して、「白川文字学」とよばれる漢字についての新しい考え方を打ち立てました。本県では独自の取組みとして、白川文字学の一部を漢字学習において採用しています。

今回、文化施設を運行しているバスに古代文字をラッピングすることで、県民に白川文字学への興味・関心を深める機会を増やすことを狙いとしています。側面・後面に周辺6館の館名を、甲骨文字や金文、篆文などの古代文字を使って表しました。

【古代文字について】

- ・甲骨文字や金文（や篆文）などを古代文字といいます。
- ・漢字は今からおよそ三千三百年前に中国で生まれました。漢字の始まりは、亀の甲らや牛や鹿の骨などに文字をきざんだ、殷の時代の「甲骨文字」です。
- ・殷周の時代に、青銅器につけられた文字、「金文」が生まれました。
- ・二千二百年くらい前に、今使われている漢字の形に近い「篆文」とよばれる文字になりました。



【白川文字学について】

漢字の世界では、約千九百年前に中国の許慎という人が、秦の時代、「篆文」をもとに漢字の成り立ちを説明した「説文解字」という字書が、絶対に間違いないものであると、長い間信じられてきました。しかし、中国の遺跡から「甲骨文字」や「金文」が発掘されると、「説文解字」に多くのあやまりがあることが分かってきました。

白川静先生は、甲骨文字や金文をくわしく研究し、古代中国の人々のくらしや考え方をもとに漢字の成り立ちや意味を考えた「白川文字学」とよばれる新しい漢字の世界を作り上げました。

【ラッピングデザイン】



福井県立図書館（金、篆、金、甲、金、篆、甲）



文書館（金、金、篆）



ふるさと文学館（甲、金、篆、篆、甲、金、金）



生活学習館（金、篆、甲、篆、金）



こども歴史文化館（篆、甲、金、金、甲、篆、甲、金）



福井市美術館（金、甲、篆、甲、篆、金）

説：篆文 11文字 金：金文 15文字 甲：甲骨 10文字